

## 2015 アジアロードレース選手権シリーズ 第3戦 7月3日(金)～5日(日)開催のご案内



株式会社モビリティランドは、鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)にて2015年7月3日(金)～5日(日)に、「2015 アジアロードレース選手権 第3戦」を開催いたします。

2015年に設立20周年を迎える本選手権はマレーシア、インドネシア、タイ、カタール、そして日本を舞台に年間全6戦が行われます。選手は開催国を中心にアジア、オセアニアの13カ国以上から110名を超える若手、ベテラン選手が多数参戦し、チャンピオン争いを繰り広げます。

国内では唯一の開催地となる鈴鹿サーキット。2013年以来3回目の開催となる今シーズンは、これまでの「スーパースポーツ600cc (SS600)」、「アジアドリームカップ」、「アンダーボーン130cc」の3クラスに、新たに「アジアプロダクション250」、「スズキ・アジアン・チャレンジ」の2クラスを加えた5クラスで、全クラス国際レーシングコースのフルコースで開催し、参加国数・ライダーは過去最大となる見込みです。

なお、本イベントはゆうえんちモトピア入園料(大人1,700円 子ども800円 幼児600円)で、観戦およびパドックエリアまで入場可能となり、白熱したレースをお楽しみいただけます。



スーパースポーツ600ccのレースシーン  
(写真は昨年のもので)



アンダーボーン130ccのレースシーン  
(写真は昨年のもので)



スズキ・アジアン・チャレンジ

### 開催概要

- 大会名称 2015 アジアロードレース選手権シリーズ 第3戦  
(英文表記) 2015 ASIA ROAD RACING CHAMPIONSHIP ROUND 3
- 開催日程 2015年7月3日(金)フリー走行  
7月4日(土)予選  
7月5日(日)決勝
- 会場 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース フルコース(5.821km)
- 主催 一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会(MFJ)／株式会社モビリティランド
- 後援 観光庁、三重県、鈴鹿市、鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会、  
一般社団法人 鈴鹿市観光協会、鈴鹿商工会議所

### 株式会社 モビリティランド

東京オフィス 〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-6-20  
鈴鹿サーキット 〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町 7992

TEL(03)3278-0731 FAX(03)3278-0733 E-mail: media@mobilityland.co.jp  
TEL(059)378-1111 FAX(059)378-4568 URL http://www.suzukacircuit.jp/

## レース紹介・見どころ

### 2014年J-GP2チャンピオンの高橋裕紀をはじめ多くの日本人ライダーも参戦する アジアロードレースの最高峰「スーパースポーツ600cc」



高橋裕紀選手

アジアロードレース選手権最高峰クラスである「スーパースポーツ600cc (SS600)」はレース専用の600ccフルカウルスポーツバイクで行われる。今年からスズキがこのクラスに復帰し、Honda、カワサキ、ヤマハとともに日本4大メーカーが揃います。

ザクワン・ザイディがMoto2™へステップアップし、ディフェンディングチャンピオン不在となる今シーズンは、2014年J-GP2チャンピオンを獲得した高橋裕紀や、惜しくも1ポイント差でシーズン年間2位となった伊藤勇樹、WSBで活躍しヨーロッパでも絶大な人気を博す芳賀紀行など、注目の日本人のエントリーも発表されています。

一方、アジア勢では、昨シーズンの開幕戦で2レースともに優勝したザムリ・ババ(マレーシア)や、昨年鈴鹿8耐にも参戦したインドネシアHondaのエース、ディマス・エッキー・プラタマ(インドネシア)など、ザイディに続いての世界へのステップアップを目指して数多くのライダーが参戦します。

### 世界への登竜門「アジアドリームカップ」は特別戦として2時間耐久レースを開催 アジアロードレースの象徴的カテゴリー「アンダーボーン130cc」は今年も開催



アジアドリームカップのレースシーン  
(写真は昨年のもので)

元MotoGP™ライダーの中野真矢氏がアドバイザーを務める「アジアドリームカップ」は、鈴鹿大会のみの特別戦、2時間耐久のCBR250Rワンメイクレース「Asia Dream Endurance Race」として開催されます。シリーズを争う選手に加え、世界を目指す日本国内の若手ライダー総勢60チームのバトルは混戦となることが予想されます。

アジアで人気のアンダーボーン車両で行われる「アンダーボーン130cc」では、常に集団でのレース展開で、このカテゴリーならではの激しい接近戦が期待されます。

両カテゴリーとも、参戦ライダーの中には鈴鹿4耐にも参戦してくるライダーがいたりと思われ、鈴鹿8耐へのステップアップを目指すアジア人ライダーの走りにも注目です。

### 次世代の主流マシン250ccロードレーサーで競う「アジアプロダクション250cc」 加賀山就臣選手が企画運営した「スズキ・アジアン・チャレンジ」の2カテゴリーを初開催



加賀山就臣選手(中央)

2015年より、ふたつのカテゴリーが新設されます。

「アジアプロダクション250cc」は、巨大な2輪市場で次世代の主流になるであろう250ccのロードレーサーでレースが開催されます。

そして、加賀山就臣選手が企画・運営をする「スズキ・アジアン・チャレンジ」は、アジア地区から将来のMotoGP™ライダーを育成するためのプログラムとして設けられ、ステップアップを目指す9カ国のライダー達が熱戦を繰り広げます。

この2カテゴリーの新設により、レースウィークを通して、9回の決勝レースが行われることとなります。

#### 株式会社 モビリティランド

東京オフィス 〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-6-20  
鈴鹿サーキット 〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町 7992

TEL(03)3278-0731 FAX(03)3278-0733 E-mail: media@mobilityland.co.jp  
TEL(059)378-1111 FAX(059)378-4568 URL <http://www.suzukacircuit.jp/>